

多様な学習者とブログプロジェクト
Multiplicity and Blog Project

佐藤慎司(コロンビア大学)
Shinji Sato (Columbia University)

瀨瀨憲子(ノートルダム大学)
Noriko Hanabusa (University of Notre Dame)

1. 問題提起: 学校間の連携(articulation)がスムーズに行かないのはなぜか

アメリカでは小学校から高校までの日本語プログラムの数の増加、また、グローバルゼーションなどの影響で国境を越えた人の行き来が盛んになり、大学で日本語を学習する学習者像は以前にも増して多種多様なものになっている。以前からのいわゆる漢字圏の学習者をはじめ、最近では高校で日本語を勉強した学習者、「継承語学習者」、日本のインターナショナルスクールに通った学習者などは、カリキュラム、シラバスや授業計画を作る際の「伝統的」な学習者像にあてはまらず、大学に入り日本語を履修する際に日本語のカリキュラムにスムーズに適応・順応できない場合も多い(高橋・服部 2009)。

その原因の一つとして考えられるのは、学校におけるシラバスやカリキュラムが多様な学習者像を念頭において作られていない(桜井 1984)ため、大学のプログラムが多様な学習者の受け入れに対して準備不足で、学習者の多様性に対応しきれない可能性があるということである。本稿では、このような問題点を踏まえ、まず、シラバス、カリキュラムという発想の起源であると考えられる学校の歴史を振り返る。その後、学校、教室活動の利点を活かしながらも、その問題点を乗り越える可能性のあるブログを用いた実践を報告する。

2. 学校文化、教室文化¹

近代の学校というものはイギリスにおける貧民救済活動に起源を持つ。そこでは貧民を悲惨な生活から解放し、「勤勉な」生活態度を育成し、「健全な」市民を形成することを目標としていた(柳 2005)。その後、学校はしだいに「管理」し、計画を練る人間と、計画に従って教えることだけに専念する人間とに分解され、教育政策、学校経営、カリキュラム、シラバス設計から教室活動まですべて一人で決定することのできる教師は少なくなった。つまり、教師にとって自分が社会や文化といった大きい枠組みの中でいったい何をしているか、社会や文化にどんな影響を与えているのかという全体像を把握することが困難になったのである。そして、主に経済的な理由、つまり、いかに無駄を省いて「効率よく」クラス運営をしていくかという観点から、さまざまなマニュアルが整備されていった。それは教授活動に必要な諸要素(例えば、教師マニュアルの中にあるよくある質問とその解答など)を徹底的に事前に制御できるような形のものであった。それと同時に現在の「一斉教授方式」つまり、一人の教師を前にして何人

¹ この部分は佐藤(2006)を加筆修正した。

もの学習者が学習するという方式も導入されるに至った。つまり、個々の違いをあまり認めず、皆同じように扱うことによって「効率化」を追求した結果が現在の学校なのである。それらは学校文化と呼ぶこともでき、そこでは一人一人違う人間を同じように扱うことが望まれている。

近代の学校制度では多くの国において国レベル、あるいは各地方自治体レベルで指導要領が作られ、国、あるいは、地方自治体ごとに一斉に同じようなカリキュラム(内容、進度)が実施されており、その到達度を問うため、教室活動の中、あるいはさまざまな試験によって絶えず学習者は評価されている。ここでは、この近代学校制度の問題、つまり、学校文化の特徴を1)カリキュラム(内容と進度)、2)クラス編成、3)評価の3つに絞ってまとめる。

2.1 カリキュラムの内容と進度

小学校、中学校、高校ではカリキュラムの内容と進度(どの時点でどんなことを学習するか)は、国家単位で定められるようなものから、地方自治体、学校、教室単位で決められるものまでさまざまである²。しかし、学ぶべき知識としての内容がどのように選ばれるか、また、カリキュラムの進度はどのくらいに設定されるかは中立的なものではないことが国内外で様々な研究者によって報告されている(アップルら 1993, Giroux 1992, Apple 1993)。また、決定された内容、進度は学年別テスト、一斉テスト、大学入試などがあるため絶対的で、各教師、各学校に変更できる目安というようなものではない場合が多い。その結果として、学習者にとって進度が速すぎても遅すぎても、一教師が学習者に合わせてその進度を変更することは難しくなっている。

大学レベルでは国や州などの規制をあまり受けないため、これらの調整は比較的易しいが、シラバスがある場合、それを変更することは難しい。特に、言語のクラスではプログラムの全体の流れ、進度(次の学期、学年のクラスとの接合)があるため、個々の教師で自由にクラスの内容や進度を調整することは難しくなっている。

2.2 クラス編成

教える内容、進度だけではなく、教えられる空間もまた、コントロールされている。近代の学校では同じ年齢の学習者、同じレベルの学習者が集められ、一人の教師のもとで教えられるといった様式をとっているが、それは近代化以後の様式である。日本でもこのようなスタイルは寺子屋、あるいは、隣組などでは存在していなかった。寺子屋や隣組のような学習の場所では異なる年齢の子供たちが集まっており、現在のように年齢によってクラス分けがなされることはなかった(稲垣 1995)。しかし、必ずしもどちらのスタイルがいいとは言うことはできない。個人教授では個々の学習者にあわせて様々な丁寧な指導ができるなどの利点もあるが、同じレベル、あるいは何人かの学習者が集まることによって、自主的な学習グループができ、士気が高まるなどの利点もある。

² 例えば学習指導要領、教科書検定、教科書選択など。

2.3 評価

現在のシステムでは試験、小テストをいつ行うか、宿題をいつまでに学習者に提出してもらうのか、また、それらをどう評価するかなど、また、全体評価に関してもどのようなカテゴリーをどの位の割合で比重を与え評価するかなどすべてにおいて教師側が権限を持っており、学習者に選択肢が与えられることはほとんどないのが現状である。

しかし、現実問題として学校が評価をなくす、つまり、教師の権力を排除するということは学校の性質上不可能であり、またそれが一概によいとも言えない。問題は学校、教室のよいところ(クラスメート同士励まし合うなど)をそのまま残し、教師の持つ権限、評価というものをどのようにコース設計、また、教室活動において用いるかということであろう(佐藤 2004)。次節ではブログプロジェクトが、これらの問題点をいかに乗り越える可能性があるか、報告を行う。

3. ブログプロジェクト

3.1 ブログとその利点

「ブログ」とは「ウェブログ」(**weblog**)を略した言葉で、ウェブ上に残される記録 (**log**)という意味を持つ。現在では継続して更新され続けるものであればどんなものでもブログと呼ばれることが多い。トピックは個人の日記のようなものから映画、本の批評、政治、社会問題に関するコメント、最近では研究者もネットワークづくりに用いるなど様々なものがある (Ducate & Lomicka 2005)。

ブログと同様のオンライン媒体として、ホームページやオンラインチャットがあげられる。前者と後者にはいくつか顕著な違いがある。ホームページでは読者は感想、意見などをコメントができないのに対し、ブログでは読者が記事に対してコメントをすることができる。また、ブログはオンラインチャットとは異なり、誰でも好きな時間に記事やコメントを書いたり読んだりできる。したがって、ブログの利点は次の3点に集約することができる。

- 1) 読者が不特定多数である。
ネット接続さえあれば世界に発信が可能である。
- 2) 読んだ人は誰でもコメントができる。
一方向だけでなく双方向でのコミュニケーションが可能になる。
- 3) 好きなときにブログの書き込み、コメントができる。
時間の制約を受けない。

これらのブログの特性を活かし、次項に挙げる目的を掲げてブログ活動を行った。

3.2 ブログプロジェクト実践概要

本実践は、通常の「文法積み上げ式」のカリキュラムと並行し、2008年秋から春にかけて行われた初級レベルのブログ活動である。アメリカの3大学、フランスの大学、マレーシアの大学の日本語初級の学習者を対象に行われ³、ブログを通して他大学の学習者と交流をはかることが主目的であった。手順は以下の通り。

活動の手順

1. ブログについて説明を受け、個人のブログを開設する。
2. いいブログとは何か、みんなで考え、最終評価の基準を作成する。
3. 定期的にブログにポストをし、またコメントを書き、他のブログも読む。
4. 文化、言語、技術的な問題を皆で相談し解決する。
5. (2)で作成した基準に基づき、自分のブログとクラスメートのブログの最終評価を行う。

まず、学習者は学期の始めにブログを開設した。ブログ開設の際にアメリカのキューブ大学⁴、ネールズ大学で講師が掲げた目標は次の通りである。

1. 日本語を勉強しながら幸せだったこと、びっくりしたこと、うれしかったことや大変だったこと、そして様々な疑問を表現／シェアするため
2. クラスメートやクラスの外の人とコミュニケーションするため
3. それまでにしてきたことを振り返る(評価していく)ため

ブログ開設後は、定期的にポストを行うと同時に、クラスメート、同じ大学の他のセクション、他の大学の学習者のブログを読み、コメントを残し、やり取りを続けていくという活動を行った。また、キューブ大学、ネールズ大学では学期末の評価基準も教師と学習者の合意の上で決定し、最終的なプロジェクトの評価はこの評価基準に基づき、教師と学習者が行った。学習者はクラスメートのブログだけでなく自分のブログも評価した。

これから見る事例での知識・情報のやりとりは、ただ単に手順通りに行ったから発生したわけではない。ここでブログプロジェクトを活性化させるために教師がしたことの効果を示すことは難しいが、教師が心がけたことはこの活動に大きな影響を与えたと考えられる。実際に活動中、学習者がプロジェクトに積極的に参加できるようにキューブ大学、ネールズ大学の担当教師がしたことは以下の通りである。

1. 学習者と話し合いながら、スケジュール管理を行った。
2. 授業中、ブログを読む時間、ブログを書く時間、コメントを書く時間、問題発見解決にあてる時間を設けた。
3. 問題解決のためのヒント、解答を与えた。(とくに言語面)

³ 9月の開始時点でのそれぞれの国、大学の詳細は資料1を参照。

⁴ 本稿ではプライバシーを保護のため大学名、個人名はすべて架空の名前を用いる。

4. 何のためにこの活動を行っているのか、その目的を活動中何度も繰り返し、学習者に伝えた。
5. クラスでブログを取り上げ、皆で読んだり、クラス内外で学習者のブログに関して声かけを行った。
6. 学習者と話し合いながら評価の仕方を決定した。
7. 一読者としてブログを読んだり、コメントをしたりした。
8. 最後に評価者として評価を行った⁵。

次節ではこれらの手順と教師のサポートにより実施されたブログプロジェクトの実際の学習者のやり取りを分析する。

4. データ分析

本節ではブログプロジェクトのデータを提示、分析することで、この活動がいかに学習者同士の学び合いを促進しているかを明らかにする。ここで用いるデータは学習者が実際にポストしたブログのエントリーとコメントである。以下アメリカネールズ大学とキューブ大学の学習者同士の学び合いを見ていく。

4. 1「言語」の学び合い

ブログプロジェクトにおいて学習者同士の「言語」の学び合いはいくつか見られたが、ここでは同じ大学同士の学び合いと他大学との学び合いに分けて分析を行う。

4. 1. 1 同じ大学同士での学び合い

この節ではネールズ大学の学生同士の学び合いの事例を3つ取り上げ分析する。

事例1: 単語を教える(すいかおんな(ネールズ大学日本語1年生クラス 学部2年生))とタン(ネールズ大学日本語1年生クラス 学部1年生))

タンは中国からの学生で、高校での学習歴はないが、ブログプロジェクトを実施したコースを履修する前年の夏自分である程度勉強してからクラスに入った。リーのブログプロジェクトでの活動を見ると、すいかおんなの10月5日の「私のへや」というタイトルのポストにコメントをしている。すいかおんなは、最初に書いたポストで「わたしのへやのともだち」と書いていた。(以下、コメント欄でのやり取り)

タン said...

カーリーさんが ゲージャさん の ルームメート ですか。ぼくの ともだちの ともだち です。 kinda confusing⁶.
October 9, 2008 6:47 AM

⁵ キューブ大学、ネールズ大学のコンピューターラボでの活動での指示の詳細は資料を参照。

⁶ 学習者のポストの分かち書き、英語使用、文法の「誤り」はすべてブログに書かれておりである。

すいかおんな said...

ありがと。すみません。I didn't know the word for 'roommate' before so I improvised. I changed it to ルームメイト。 You're luck to have your own "built-in" ルームメイト にほんごのじょ。

October 9, 2008 5:00 PM

ここでは、自分である程度勉強してから入ったタンが、「roommate」を「へやのともだち」ではなく「ルームメイト」であるということを、コメント欄で実際に「ルームメイト」という言葉を使って質問することによって教えている。そのコメントを見たすいかおんなはタンへの返答コメントで「ルームメイト」という言葉を教えてくれたことに対して礼を述べ、ブログのポストの「へやのともだち」という部分を「ルームメイト」と書き換えている。

事例2: 単語を教える2(タン(ネールス大学日本語一年生クラス 学部1年生)とK8(ネールス大学日本語一年生クラス 学部2年生))

タンもK8もネールス大学の学生である。K8は10月5日の「わたしのへや」のポストの中で「これは わたしの あおい shoesです。それは わたしの ちゃいろい shoesです。あれは kkさんの shoesです。」と書いているが、K8のこのポストを読んでタンは次のように答えている。

タン said...

for future reference, shoesは にほんごで くつと いいます。くつが たくさんありますよ。

October 9, 2008 5:31PM

k8 said...

ありがと。(For telling me how to say shoe). ジェーソンさんの ビデオは くつが ありました。 With two girls in a room, we do have a lot of shoes.

October 23, 2008 10:31 AM

この事例ではタンがK8に「くつ」という言葉を教え、K8は教えてくれたタンに「ありがと」とお礼を言っている。

これらの2つの事例からわかることは、教科書や教室活動で「ルームメイト」「くつ」という言葉が導入されるのを待たずに、お互いに知っている語彙をどんどん教え合ってるということである。教科書がどんなに語彙の研究をもとにし、初級段階でよく使われる言葉を選んだところで、それが個人個人のニーズに完全に適合するということはある得ない。教科書を使い、一般的によく用いられる語彙を習得しながら、同時にこのプロジェクトのような活動をすることで、個々人の日常生活に密着した語彙をマスターするだけでなく、学習者同士でそれを共有することが可能になる。これは、この3つの事例で見た語彙に関してだけでなく、次の文法や「文化」に関しても同じことが言える。

4. 1. 2. 他大学との学び合い

言葉の学び合いは同じ大学の学生同士に限らない。学び合いは大学の枠を超えて、5大学間で見られたが、ここでは特にネールス大学とキューブ大学の学生の3つの事例に焦点を当てる。

事例3: ブログを読むことによる学び(タン ネールズ大学日本語1年生クラス 学部1年生))
ネールズ大学一年生のタンは自分のブログの中で他の学生のブログから単語を学んだと書く。

SUNDAY, OCTOBER 26, 2008

すきなブログ

キューブだいがくのmasamuneのブログが すきです。masamuneのビデオが とてもおもしろいです。ビデオも こっけい(funny)ですよ。にほんじん+アフロ=ものすごいです。そして、コメントを よんで たくさん あたらし たんご(vocab)を おぼえました(memorized)。

POSTED BY タン AT 6:25 PM

このようにブログにコメントを読んで学んだと書かれているものは稀であったが、次の2つの事例のように教え合っている事例はいつか見られた。

事例4: 文法項目の学び(すいかおんな(ネールズ大学の日本語1年生クラス 学部2年生)とベス(キューブ大学日本語2年生クラス 学部2年生))

ネールズ大学で初級日本語を学習しているすいかおんなが動詞の名詞化について質問をし、キューブ大学で中級日本語を履修しているベスがそれに答えている。

(すいかおんなの 10/13「わたしのねこ」のポストに対して)

Beth said...

はあー！かわいいですねえ！わたしはねこがだいすきです！わたしもねこがいます。ふとくてグレイです。よくカリカリしています(she is often grumpy)!でも、かのじょはわたしをあいしています。 こんにちは！おなまえはアリス。キューブだいがくのにほんごのにねんせいです。にほんごをならうのがすきですか。

すいかおんな said...

どうぞ よろしく！おなまえは ミミです。わたしは にほんごのいちねんせいですが、でも ネールズだいがくのにねんせいです。 すみません。Having difficulty with you question '^.^': にほんごをならうのがすきですか。

Japaneseを_____の_____ですか。

October 24, 2008 12:38 PM

Beth said...

「にほんごをならうのがすきですか」のいみ(meaning)は、"How do you like learning Japanese?" When you put「の」after the dictionary form of a verb(you probably haven't learned dictionary form yet, but if not, you will soon!), it turns the verb into a noun. ならう means "to learn," so 習うの means "the act of learning!" とてもべんりなフォームですね！

October 26, 2008 9:22 PM

すいかおんな said...

ええ、そうですね。 日本ごは いいです。Actually, Much easier than I thought it would be '^.^'" I have a

feeling I'm just a "language" person. I hope to maybe study abroad in 日本 next year. Happy electionday!!!

November 4, 2008 6:59 PM

ここではベスがすいかおんなに尋ねた「にほんごをならうのがすきですか」という質問をすいかおんなが理解できずに、「Japaneseを_____の_____ですか」と問い返したことでコミュニケーションが始まる。そして、すいかおんなが授業で動詞を名詞化するという文法項目を習う前に、ベス(日本語中級の学生)がすいかおんな(初級の学生)にその作り方を教えている。

これらの事例でわかるように同じ学校内だけでなく、学校を超えて日本語学習者同士で教え合いが行われていることがわかる。次節では言語面だけでなく「文化」面に関しても同じような教え合い、情報交換が行われている事例を紹介する。

4. 2. 日本語学習・「日本文化」に関する情報交換

学習者はオンライン辞書、ゲーム感覚で楽しめるひらがな・カタカナ・漢字のオンライン学習サイトなど、日本語学習に関するサイトだけでなく、好きな日本のアニメ、音楽、映画、テレビ番組などに関する情報をブログを使って情報交換している。以下にその事例を2つ紹介する。

事例5: 日本語学習に便利なサイトの情報交換(ブラウン(ネールズ大学日本語1年生クラス 学部1年生)

ネールズ大学のブラウンは自分のブログで基本漢字100の筆順をわかりやすく示してくれるサイトを紹介し、それを見た読者がブログのコメント欄にその感想を書き込んでいる。以下ブラウンのブログポストである。

Wednesday, October 29, 2008

Kanji stroke order animations!

<http://kanjianime.axspace.com/kanji.html>

This is probably seriously useful. :)

Posted by Brown at 9:25 AM

このブログポストでの漢字サイトの紹介を見て何人かがコメントを書いている。

ホワイト said...

まじで?とても cool ですね。いまわたしのせかつとてもやさしいです。kanji always bothers me.

November 9, 2008 10:08 AM

ローラ Rosie Bramante said...

かんじのかきかたですから、どうもありがとう。

December 8, 2008 7:31 AM

kaleidoscopeyes said...

とても便利ですね!

December 10, 2008 10:21 PM

このコメントから実際に紹介された漢字サイトを訪問し、それが便利で有用なサイトであると感じていることがわかる。事例5では単に紹介するだけでなく、お互いが感謝の気持ちや感想などのコメントを残している。このように興味のあるトピックのディスカッションが発展していくものはたくさん見られた。

ほかにも日本のテレビ番組をポストするなど「日本文化」に関して情報交換する例はたくさん見られた。

次節では、これまでの事例で見たような言語、「文化」の教え合い、情報交換だけでなく、コミュニケーションの際にお互いに配慮し合っている例を一つ見ていく。

4.3. 相手への配慮

ただ単に言語や「文化」を教え合う、情報を交換するというだけでなく、ブログのコミュニケーションの中で相手への配慮しながらコミュニケーションしている例もいくつか見られた。その例を下に示す。

事例6: 漢字の使い過ぎを謝りコミュニケーションを円滑にした(パン(ネールズ大学日本語1年生クラス 学部1年生)とバート(キューブ大学日本語1年生クラス 学部1年生))
以下はキューブ大学のバート(高校で日本語を既習)がネールズ大学のパンに12月21日に漢字を使いすぎたことを謝り、それ以後相手に分かるよう簡単な文で書くようになった例である。

この事例ではバートがファンのネールズ大学についての写真付きのポストを読んで、次のようなコメントを残すところからコミュニケーションが始まっている。

vch2115 said...

きれいなしゃっしんですよ。私の名前はバートでコロンビア大学の一年生です。コロンビア大学もきれいで古いです。スポーツが好きですか。コロンビア大学のスポーツはわるいです。でも学生と先生は頭がいいです。

October 6, 2008 11:52 AM

Phantastic said...

こんいちは！ パンです。はじめまして。どうぞ よろしく。 おなまえは なんですか？ いま、なんねんせいですか？ だいがくは どこですか？ どこ から きましたか？ わたしも Gossip Girlを みます。 [Reruns this Monday though.] そして、わたしも Dorian Grayを よみました。 I really liked that book! I apologize for my limited Japanese...I'm a true beginner, unlike you :) じゃあ、また！

October 6, 2008 1:19 PM

vch2115 said...

パンさん、はじめまして。すみませんたくさんかんじをかきました。わたしのなまえはバート(Vasilis)です。父はギリシャ人です。キューブのだいがくです。いちねんせいです。ニューヨークからきました。 パンさんはどこからきましたか。なにがすきですか。

October 21, 2008 11:18 AM

Phantastic said...

こんにちは！ テキサスのアーリントン からきました。 せんこうは なんですか？ Your Japanese IS really good. I'm envious :)
October 25, 2008 11:22 AM

この事例ではただ単に教え合う、情報を紹介するだけでなく、相手へ配慮したコミュニケーションが交わされている。パンのブログ記事に対してのバートの最初のコメントでは漢字がたくさん用いられているが、バートはそのコメントに対する「I apologize for my limited Japanese...I'm a true beginner, unlike you :) 」というパンのコメントを読み、「すみませんたくさんかんじをかきました。」と謝っている。バートはその後のポストではほとんど漢字を使っていない。そして、パンはそのポストを読み、「Your Japanese IS really good. I'm envious :)」とコメントしており、高校で既習したバートがパンにとって手本(role model)になっているとも言える。

5. 考察

本節では上記のデータをもとに、ブログプロジェクトが多様な学習者が自分のレベルにあった学びができる機会を提供する可能性を、1) 個人の興味への対応、2) お互いの長所を活かすという側面から考察する。

5.1. 個人の興味への対応

実際の学習者のブログ記事は、学習者の興味が本当に多様であることを示している。今回取り上げた事例だけでも、トピックはルームメート、寮の部屋、日本のアニメ、ペット、漢字学習、テレビ番組、大学生活と多種多様である。学習者は、何を書いたらいいのかわからず困ったときには、「こんなトピックで書いては？」という、教師からのアイデアの影響は受けてはいるが、基本的には自由にトピックを選び、本当に書きたい内容を書いている。一斉教授方式の教室活動でこのような多様なトピックを取り入れようとしても、時間の制約があり難しい。それは一斉授業方式が基本的に教師と学習者の関係を重視するものではあるが、学習者同士の関係を促進するものではないからだと考えられる。しかし、ブログプロジェクトでは学習者同士の関係を重視し、学習者同士が自由にコミュニケーションをとることを奨励することによって可能になったと考えられる。

例えば、「日本文化」や「日本事情」のクラスでは、教師は、学習者に必要で、学習者が興味のあるトピックをいかにうまく選ぶかということを真剣に考えている。しかし、このようなやり方では、学習者の大多数が興味のあるトピックを選ぶということは可能かもしれないが、学習者の多様な興味のすべてをカバーすることはできない。またそれだけでなく、そこでは学習者がどんなことに興味がありそうかということを想定のもとに計画されていて、それらは実際の学習者の興味と異なることも多い。

5.2. お互いの長所を活かす

学習者は、自分の興味のあるトピックについてブログで読んだり書いたりするだけでなく、上のデータでも見られるように、自分が持っていて相手が持っていないものを与え合っていた。それらは語彙、文法など言語に関する知識だけでなく、「文化」的知識や学習に有用なサイトなどにまで渡っている。このような知識を提供し合う、情報交換の活動も実際の教室活動では取り入れることが難しく、このブログ活動によって取り入れることが可能になった重要な側面であると考えられる。

ここで大切なことは、ただ単に知識・情報を与え合うだけでなく、その後に交わされたやり取りである。「ルームメート」や「くつ」という言葉を教えたり、便利なサイトを紹介したりして「ありがとう」と感謝されるだけでなく、「Japanese IS really good. I'm envious :)」と、ほかの学習者の手本になることによって、これまでの伝統的なクラスでは、「余計なこと」を知り過ぎクラスの中では知っていることも言わないように注意されていたかもしれない学習者が、ここでは感謝され、ほかの学習者のお手本ともなっているのである。

6. おわりに: みんなの居場所のある日本語教育へ

本稿では、冒頭で学校間の連携の問題について考えた。そこでは、学校というものが生まれた背景から見て、カリキュラム、シラバスに沿った活動だけでは個人の多様性に対応することは難しいことがわかった。しかし、本稿で報告したブログプロジェクトのように、カリキュラム、シラバスに沿った「伝統的」な教室活動と並行して学習者にとって自由度の高いプロジェクトを行うことにより、個人の多様性に対応できる可能性のあることもわかった。

日本語教育において、教師が学習者にカリキュラム、シラバス通りに日本語、「日本文化」に関する知識を与えていくこと、そして、その知識の定着度、また、パフォーマンスを評価することはもちろん大切なことである。しかし、それだけで十分なのであろうか。日本語教育をも含むすべての教育には、将来を担う次世代の育成という大切な任務がある。そして、その任務を果たすためには、学習者が自分で学習に責任を持ち、教師やほかの学習者の持ついいところを自分から積極的に活用すること、また、ともに生きる(教室)コミュニティのメンバーとして教師も学習者もお互いに切磋琢磨し、共通の目標に向けて励まし合う姿勢を養うことも大切なのではないだろうか。それがコミュニティの中で伝統的な学習者像にあてはまらない学習者にも居場所を作り、ひいては、学校間の連携の問題を解決することにつながるのではないかと筆者は考える。

参考文献

- アップルニマイケル・長尾 彰夫・ジェフ ウィッティ (1994)『カリキュラム・ポリシーックス—現代の教育改革とナショナル・カリキュラム』 東信堂
- 稲垣忠彦 (1995)『明治教授理論史研究—公教育教授定型の形成 増補版』評論社
- 桜井哲夫 (1984)『「近代」の意味:制度としての学校・工場』NHK ブックス
- 佐藤慎司 (2004)「クリティカルペダゴジーと日本語教育」『リテラシーズ1:言葉・文化・社会の日本語教育へ』くろしお出版
- 佐藤慎司 (2006)「学校／教室という空間を超える試み:初級日本語における実践」言語文化教育研究
- 佐藤慎司・深井美由紀 (2008 a)「社会文化的アプローチの実践:初級日本語ポッドキャストリングプロジェクト」畑佐由起子(編)『外国語としての日本語教育』くろしお出版
- 佐藤慎司・ドーア根理子(編著) (2008 b)『文化、ことば、教育:日本語／日本の教育の「標準」を越えて』明石書店
- 高橋悦子・服部真子 (2009) 日本語教育にみる高校・大学間のアーティキュレーション:教師と学生の声 アマースト大学『第23回ニューイングランド日本語教師会プロシーディングズ』
- 深井美由紀・佐藤慎司 (2008)「教室から社会へ向けて:ポッドキャストを使った社会文化的アプローチの実践」細川英雄(編)『ことばの教育を实践する・探求する:活動型日本語教育の広がり』凡人社
- 柳治男 (2005)『<学級>の歴史学』 講談社
- Apple, M. (1993). *Official knowledge: Democratic education in a conservative Age*. New York: Routledge.
- Ducate, L. & Lomicka, L. (2005). Exploring the Blogosphere: Use of Web Logs in the Foreign Language Classroom. *Foreign Language Annuals*, 38, 410-421.
- Giroux, H. (1992). *Border Crossing: Cultural workers and the politics of education*. New York: Routledge.

資料1: ブログプロジェクト参加校概要

2008年7月～2009年6月

大学名 (仮名)	学生数	セクション数	授業時間(週)	担当 講師数	主教材
キューブ大学 (アメリカ)	66(秋: 9-12月) 54(春: 1-5月)	3	65分 x 4日	3	みんなの日本語 Lessons 1-32
スワン大学 (アメリカ)	59(秋: 9-12月) 49(春: 1-5月)	4	50分 x 5日	2	げんき Lessons 1-17
ネールズ大学 (アメリカ)	30(秋: 9-12月) 25(春: 1-5月)	2	50分 x 5日	1	なかま (2nd ed.) Chapter 1-12
エルー 理工科大学 (フランス)	12(秋: 9-1月) 12(春: 2-6月)	1	90分 x 2日	1	みんなの日本語 1-14
ミレーネ 科学大学 (マレーシア)	38(秋: 7-10月) 38(春: 12-3月)	2	120分 x 3日	1	げんき Lessons 1-13

資料2: ブログプロジェクトの目的

For this class we would like you to keep a blog because it provides a place:

1. To share/express your happiness, surprise, excitement, and/or frustration, as well as any questions you might have, while learning the Japanese language (or any other topics).
While studying new grammar and words is very important when learning a language, it is equally important to actually use the language in a real life context. You must not wait to express yourself only when you think you have mastered the language because language learning is basically an ongoing process. In the beginning you may use English or any languages to express yourself, but I recommend that you gradually switch to Japanese whenever you feel comfortable enough to express yourself in Japanese.
2. To communicate with your classmates and other people outside of class.
Language learning is not limited to what you do for the course but also includes what you do and experience outside the class. We will create links to your classmates' blogs as well as blogs by students in other schools, so you can see what other people think and feel about Japanese language learning (as well as other topics). You are also strongly encouraged to leave comments on these blogs. We know that your Japanese language is very limited, but you can convey your intended meaning more effectively by utilizing other resources such as pictures and videos. Remember that people utilize not only language but also other resources such as tone of your voice, music, body language, picture, color, font style and size for communication.
3. To reflect (or evaluate) what you have done so far.
Sometimes it is challenging to see our own progress or growth. Blogs help you to look back and see how you have changed through the course of your Japanese language learning. At the end of the semester your blog will be evaluated by the instructor, your classmates, other people, as well as yourself. We will discuss the criteria of evaluation later.

資料3:ネールス大学教室内ブログ活動の指示

第1回

1. Read the comments made about your own blog. (10 min.)
Please read the comments made by others about your blog. (People who have already read these comments can skip ahead to step 3 below.) If you feel that it is necessary, please respond back to those who have commented on your blog.
2. Discuss what makes a good blog in groups of 3-4 people. (10 min.)
At the end of the semester we will have not only teachers but also you and your classmates evaluate each other's blogs. We will use the results of your discussions today as a basis for deciding the criteria that we will use to evaluate the blogs at the end of the semester. Post the result of your discussion in the comment column of the blog. Make sure to include your names or initials with the posting so we know that you have commented.
3. Please comment on the blogs of students from another section, as well as the blogs of students from other universities. Comment on at least 3 blogs. (15 min.)
Write at least one sentence in Japanese that includes one Japanese vocabulary word that we have learned. Record which blogs you have commented on by writing them down on a comment sheet.

第2回

1. Think about your communication with others in blogging. (10 min)
Discuss the following questions with your group members. Post the result of your discussion in the comment column. Don't forget to write your names.
 - Look at your past communication exchanges and examine how much you could continue communicating with the people whose blogs you made comments and from whom you received comments.
 - If your communication did not last long, why? How can you make it longer?
 - If your communication has lasted, why? Are there different ways to keep the communication going?
2. Keeping your discussion in mind, check the comments made on your own blog, as well as if others have/have not responded to comments that you made on their blogs. (10 min)
3. Comment on the blogs of students from another section, as well as the blogs of students from other universities. (10 min)
 - Comment on at least 3 blogs.
 - Write as much as 日本ご. Use vocabulary and grammar structures that you have learned.
 - Record which blogs you have commented on by writing them down on a comment sheet.

資料4: ブログ評価基準

ネールス大学:

1. Language: Various Grammar/vocabulary, Accuracy, Effort, Pushing abilities, A balanced amount of Japanese and English
2. Content: Creative, Adventurous, Fun, Clear, Meaningful, Pictures, Videos, Music
3. Layout: Colorful, Exciting, Not too distracting
4. Frequency: Frequent Posting (at least 6 times from Week 8 to Week 16)
5. Communication: Frequent checking, Frequent commenting, Responding to comments/questions, Commenting on various blogs

キューブ大学:

1. Language: Grammar, Vocabulary, Well-written, Well-organized, Easy to read, Clear, Concise

2. Content: Culture, Pictures, Videos, Music, Literature, Interesting, Informative, Variety, Shows personality, Enjoyable, Original, Unique, Different, Coherent, Write your own experience
3. Layout: Color(ful), Visually pleasant, Original, Pretty
4. Communication: Interaction with other people, Engaging, Leave Comments, Reacting Comments, Links to other's blogs, Use emoticons
5. Consideration: Level of Language, Word Definition, Kanji, English/Japanese ratio
6. Update Regularly